

他力

— 住職便り —



第31号（令和六年一月）

専徳寺住職 弘中満雄

【サイって何ですか？】

先日、ある方から電話でこんな質問をお受けしました。



「ご法事案内の手紙の中に

意味が分からない言葉があります。『サイがあります』とは何の事でしょうか？」

「サイがある？」

祭か、賽か、何だろうか……。話しているうちに、それは「お齋」の事でした。

「お齋」はご法事の食事を指します。

「何か特別な事かと思いました。」

安堵して電話を切られました。

お齋……齋藤さんの齋の字です。

【齋戒】

「齋」は「つつしむ」の意で、仏教で「身心の行為を慎み清浄にする」を齋戒と言います。そこから「正午から食事をつつしむ行為」↓「仏事の時の食事」になったようです。

毎日の食事づくりは大変です。

けれども法事ではその事を忘れて、読経に、仏法聴聞に集中してもらいたい、大切にしみずめてもらいたい……そんな施主の願いが「お齋」です。

目の前の料理には、多くのいのちと、無数の方々のご苦勞があります。ただ食すのでなく、目に見えない価値に気づく人間性を養い、生かされている事をおかみしめる特別な時間にしたいです。

【サイトウ】

お齋は齋藤さんの齋の字です。ところで同じ「さいとう」に「斎藤」があります。この齋は「斎しい」と読みます。

お正信偈には次のようにあります。

凡聖逆謗齊回入

如衆水入海一味

（書き下し文）凡聖・逆謗齊し

く回入すれば、衆水海に入りて

一味なるがごとし。

「凡夫も聖者も、五逆罪を犯したり

仏法を謗る悪人であろうとも、みんな

弥陀の本願の海に入れば、どんな川の水

（清水・濁水）も大海に入ると一つの

塩味となるように、ひとしく救われる。」

齋と斎は違う漢字ですが、「お齋」を

いただきながら、つつしんで多くのいの

ちに感謝しつつ、みなひとしく救うと願

われた如来さまの平等なるお心をおかみし

めたく思います。

【再開】

感染防止から中止にしていた報恩講の「お齋」

を四年ぶりに再開します。

「一汁一菜」的な形になりますが、

ご一緒にお聴聞の準備を致しましょう。

二日間ともどうぞお齋についてくださ

い。ご門徒みなさんとお聴聞できる事を

心から楽しみにしております。（おわり）

